

平成20年2月25日

豊橋技術科学大学長 殿

審査委員長 渡邊 昭彦



論文審査及び学力の確認の結果報告書

このことについて、下記の結果を得ましたので報告いたします。
記

学位申請者	細田 智久	報告番号	第 2 / 0 号
申請学位	博士 (工学)	専攻名	環境・生命工学専攻
論文題目	米英のフルサービススクールの利用諸室等の研究		
公開審査会の日	平成20年 2月 21日		
論文審査の期間	平成20年 / 月 23日～平成20年 2月 25日	論文審査の結果	合格
学力の確認の日	平成20年 2月 21日	学力の確認の結果	合格

論文内容の要旨

本論文は、1990年代後半に米・英国で設置された新しい学校のタイプのフルサービススクールに着目し、児童生徒・家庭・地域を対象に学習から生活までの積極的な支援を行う46例への実態調査を通じて、サービス組織と活動内容、支援時の利用諸室等の以下の点を明らかにしている。

本論文は8章よりなり、1章は、地域組織等が支援する米・英国のフルサービススクールの概要と、数年前から日本でも米・英国の先進事例を参考に地域が学校を支援する政策の導入事例を説明している。2章は、国内外の既往研究を分析・考察し、本研究の位置づけと独自性を明確にしている。3章は、サービス内容を対象別・内容別に分類し、サービス内容の種類から各事例の特徴と相違点を明らかにしている。4章は、サービス組織タイプを分類し、組織の役割の違い、学校との連携方法を明らかにしている。5章は、サービス組織が学校内に設けるサービス拠点確保の方法別に、配置及び諸室構成の特徴を明らかにしている。6章は、アフタースクール時の利用室を、児童生徒の安全確保の方法、専用室の設置方法、指導方法と家具からそれらの関連性を明らかにしている。7章は、ヘルス及びカウンセリングルームの配置及び諸室の構成を、諸室間の連携し易さと諸室別家具配置から明らかにしている。8章は、以上の得られた結果から、今後我国でも重要となる学校と地域が連携して児童生徒を支援する場合の計画に有用な提言をまとめている。

審査結果の要旨

フルサービススクールは、米・英国の地域組織等が運営や放課後の活動を支援する新しいタイプの学校で、地域組織が児童生徒・家庭・地域の学習から生活まで広範に積極的な支援を行う。本論文は、我国の学校建築の研究分野で、初めてフルサービススクールを研究テーマとし、実態調査を行った上で、そのソフト面のサービス内容とサービス組織の構成、ハード面の学校支援時の学校諸室の利用法の実態から、今後の学校施設のあり方を明らかにした独自性の高い論文である。

特に本論文は、児童生徒支援時の利用諸室の分析で、実態調査時のスタッフ及び児童生徒の精密な位置と家具配置図、学校敷地全体配置図を作成した上で客観的に分析する手法を用い、分析結果に高い信頼性を持たせている。さらに、結論では、我国で今後増加が予想される学校支援地域本部事業や放課後子ども教室推進事業等を考慮した学校施設計画について、拠点とする室の設置や使い方、新しい保健室や相談室のあり方など有用な提案も行っている。

本論文の主要部分である3章から7章の内容は、日本建築学会計画系論文集に2編、日本建築学会地域施設計画シンポジウム論文に8編、国際会議論文に1編の計11編の査読付き論文として掲載され、外部からも研究内容が高く評価されている。

以上により、本論文は博士(工学)の学位論文に相当するものと判定した。

審査委員

委員長 教授 渡邊 昭彦  委員 教授 大貝 彰  委員 准教授 松島 史朗 

(注) 論文審査の結果及び学力の確認の結果は「合格」又は「不合格」の評語で記入すること。